

営農情報 第6号

平成27年6月19日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 現在の生育状況

【コシヒカリ】

近年に比べ、葉齢は進んでおり、草丈はやや長く、茎数は多くなっています。

【てんたかく】

近年に比べ、葉齢は近年並で進んでおり、草丈は長く、茎数は多くなっています。
幼穂形成期は6月29日頃と予想されます（田植えが5月連休頃の場合）。

表 水稲の生育状況（6月15日、アルプス米標準田24か所平均）

| 品 種 | | 草丈 (cm) | 茎 数 | | 葉 齢 | 葉 色 | 幼穂 形成期 |
|--------------------|----|------------|------|------------------|------|-----|-----------|
| | | | 本/株 | 本/m ² | | | |
| コシヒカリ (5/12 植え) | 本年 | 40.6 | 22.0 | 450 | 9.6 | 4.4 | - |
| | 昨年 | 43.0 | 21.4 | 438 | 9.3 | 4.4 | 7/10 |
| | 近年 | 37.6 | 19.4 | 367 | 8.7 | 4.5 | 7/12 |
| てんたかく (5/6 植え) | 本年 | 47.3 | 28.6 | 641 | 9.9 | 4.8 | (6/29) |
| | 昨年 | 49.7 | 24.5 | 492 | 10.7 | 4.6 | 6/25 |
| | 近年 | 40.5 | 24.8 | 487 | 9.9 | 4.7 | 6/29 |

※ コシヒカリ近年値はアルプス米標準田H17～26の平均値。
※ てんたかく近年値は県生育観測ほ（立山、上市）H17～26の平均値。
※ 今年の幼穂形成期は推定値。

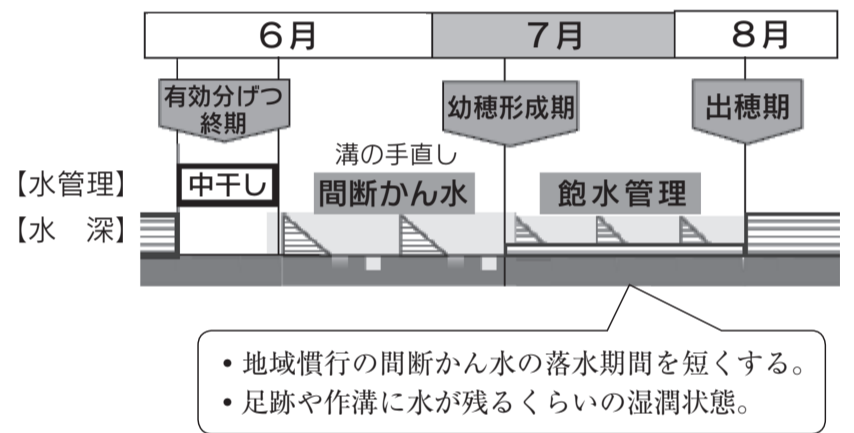
2 今後の管理

(1) 中干し後の水管理

幼穂形成期まで干しすぎに注意して『間断かん水』を行い、根の活力を高めましょう。

幼穂形成期から出穂期までは『飽水管理』を行い、根の活力維持と葉色の急激な低下を防止しましょう。

なお、まだ溝掘りしていない場合は、早急の実施しましょう。



(2) 中間追肥

根の活力を高め、下葉の枯れあがりを防ぐとともに、茎を硬くし、倒伏に強い稲体にするために、次のいずれかの資材を施用してください。

| 施用時期 | 肥料名 | 施用量 |
|------|-----------|----------|
| 6月下旬 | エスアイ加里らくだ | 15kg/10a |
| | 珪酸加里 | 20kg/10a |

(3) てんたかくの穂肥（分施体系）

1回目の穂肥は、幼穂（幼穂長1～2mm）を確認後、直ちに施用しましょう。中山間地では、施用時期が下表より3～5日程度遅くなります。

| 肥料名 | 施肥時期、10a当たり施肥量の目安 | | |
|---------|-----------------------|------------|---------|
| | 1回目 | 2回目 | |
| BB穂肥35号 | 6月29日頃 (5月連休植えの場合) | 1回目の7～10日後 | |
| | | 砂壤土 | 砂壤土以外 |
| | 10kg | 13kg | 10～12kg |

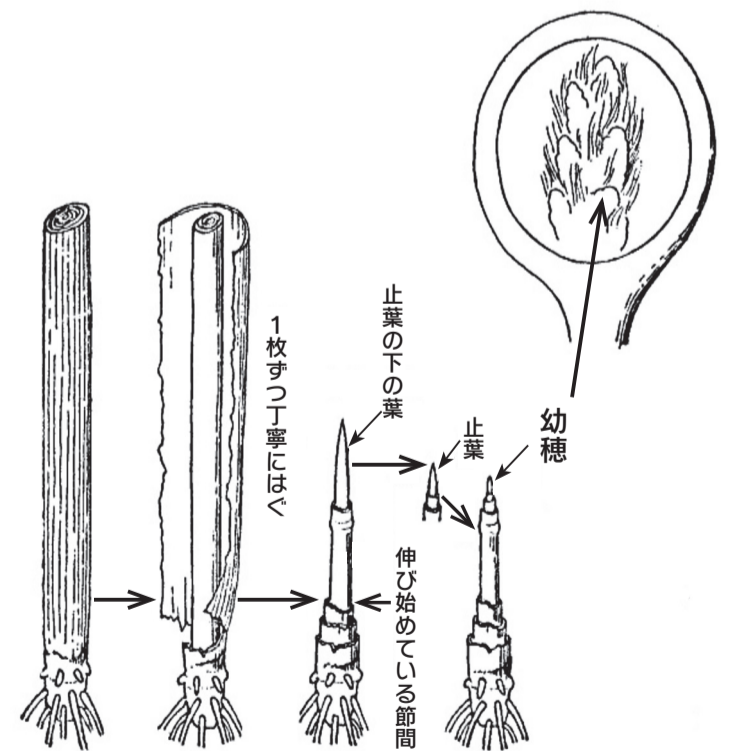


図 幼穂の確認方法

- 幼穂形成期前に葉色が4.0を下回ることが予想される場合は、BB穂肥35号で7kg/10a程度追肥しましょう。
- 基肥一発肥料を施用したほ場で、6月末に葉色が薄い場合は、各営農センターにご相談ください。

次回の営農情報（中生の穂肥、早生の防除等）の発行予定は、7月10日頃です。

3 カメムシ類の防除対策

～草刈りの徹底で斑点米カメムシ類を一掃しましょう！～

今年は4月下旬から高温・少雨が続き、カメムシ類が増殖しやすい気象経過となっています。

カメムシ類は、イネ科雑草の穂を特に好み、農道や畦畔、水田周辺雑草地はカメムシ類の発生源となります。

斑点米の発生を少なくするには、まずカメムシ類の密度を低くすることが重要です。地域全体で草刈りを徹底し、カメムシ類のすみかをなくしましょう。

主な斑点米カメムシ類

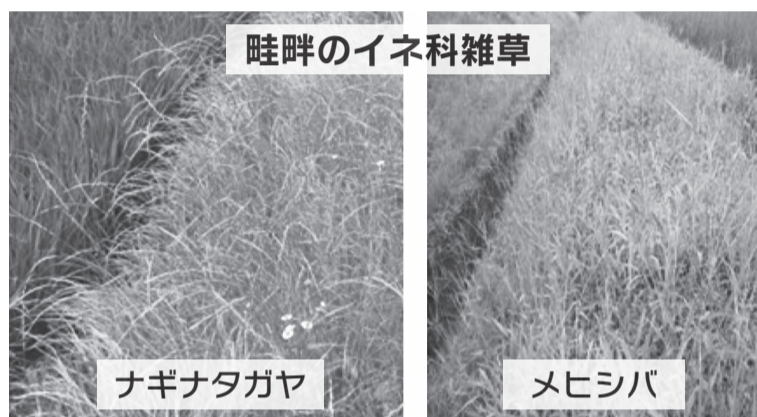


アカヒゲホソミドリ アカスジカスミカメ トゲシラホシカメムシ
カスミカメ

草刈り運動期間：7/1～10、一斉草刈り日：7/4(土)～5(日)

○畦畔や雑草地でのカメムシ類の増殖を抑えるため、イネ科雑草の穂が出る前に草刈りを行いましょ。

- ※刈り払った草は用排水路に落とさないように注意しましょう。
- ※草刈り中に近くを人や車が通過する時は、小石等が飛散しないよう注意しましょう。
- ※草刈りで道路を汚したら、清掃しましょう。



- 大麦収穫後のほ場を放置するとスズメノテツポウ等の雑草が繁茂し、カメムシ類の発生源となります。園芸作物やソバ、地力増進作物（クロタラリア等）を作付けし、農地の有効活用を図りましょう。
- 水田内に発生した雑草（ノビエ、ホタルイ等）も、カメムシ類のすみかとなります。雑草の発生状況に注意し、適切な除草対策を行いましょ。

4 早生の本田防除

7月に入ると、てんたかく等の早生品種の防除が始まります。適期防除のために準備しておきましょう。

【本田防除（1回目）】

| 防除時期 | 対象病害虫 | 剤型 | 使用農薬 | 散布量 希釈倍数 | 使用基準 (収穫前日数) |
|-----------------|------------------------|----|--------------|----------------------|-----------------|
| 出穂直前 (穂ばらみ期) | いもち病 紋枯病 ごま葉枯病 他 | 粉剤 | ブラシンバリダ粉剤 DL | 4kg/10a | 14日前まで |
| | | 液剤 | ブラシンバリダフロアブル | 1,000 倍液 150ℓ/10a | 14日前まで |

～6月15日～9月14日は、『平成27年度農薬危害防止運動』期間です！～

- ・薬剤散布の際は、使用時期、使用回数等の農薬使用基準を遵守しましょう。
- ・周辺住民へ事前に周知するとともに、周辺作物や住宅地への農薬の飛散防止に努めましょう。

- ★ケーブルテレビでも営農情報を放送 JAアルプスのホームページから常時視聴できます。
『Net 3 パラダイス』（デジタル091ch）の中で『農業ファイル』を放送中（放送時間 6:45頃、10:45頃、17:15頃、20:45頃）
- ★熱中症や農業機械操作中の事故防止、農薬の適正使用や生産履歴の記帳など、GAP（ギャップ）に取り組み、「安全・安心」な米づくりを進めましょう。